

(目標の性格)

平成22年度(新)

「目標」ごとに、「達成目標」と「実施目標」を設けた。

「達成目標」: 数的指標

- ・「目標」の達成度合いを端的にしめす数値目標。
- ・主に外的要因(来館者の動向など)によって結果が左右される。
- ・達成したかどうかは客観的に判断される。(達成した場合のS/Aの別、達成しなかった場合のB~Dの別は、各委員の裁量の範囲。)

「実施目標」: 質的指標

- ・「目標」を達成するための行動計画。
- ・運営者側の計画的な行動であり、じゅうぶんであるかどうかは、各委員の主観的な判断による。
- ・端的な指標に過ぎない「達成目標」のみでは把握できない部分を補う役割がある。

(評価基準)

「達成目標」と「実施目標」に共通の評価基準を適用する。

平成22年度(新)	
すぐれた成果を挙げている。	S
目標を達成している。	A
目標をほぼ達成している。	B
目標にはほど遠い。より一層の努力を要する。	C
努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する。	D
判定不能	F

S~Dの5段階評価に、F(判定不能)を加えた。AとBの間に「目標」がある。

- ・目標を達成していれば「A」以上となり、よい評価であることがわかりやすい。
- ・目標より下に段階を設けることにより、目標を達成していない場合、その度合いを表現しやすくなった。
- ・結果が著しく劣っている、あるいは努力の方向が間違っているために、方法そのものの再検討が必要な場合のために、「D」評価を設けた。
- ・専門的な知識が必要であるなどの理由から、評価ができないという場合のために「F」(判定不能)を設けた。

平成21年度(旧)

(問題点)

数的指標である目標①~③に、質的指標として目標④~⑩を加えた経緯があり、内容が一部重複している。

目標①~③では、評価基準が決まっているため、委員による裁量の範囲がほとんどない。

ミッション(使命)と目標との対応関係があいまい。

平成21年度(旧)	
A	指標より高いレベルに達している
B	指標を満たしている
C	指標を満たしていない

目標

A~Cの3段階評価。BとCの間に「目標」がある。

(問題点)

- ・数的指標の場合、指標をほぼ満たしていても、一番下のランクになってしまう。
- ・指標を満たしていても、2番目のランクになってしまい、一見してよい評価とわかりにくい。